

菜の花の種まき

来年こそ
延岡花物語

市民応援隊が開催準備



参加者を前に説明し、種まきの見本を見せる松田代表

NPO法人コノハナロード延岡市民応援隊（松田庄司理事長）は3日、延岡市野地町の五ヶ瀬川右岸側堤防（通称・コノハナロード）で菜の花の種まきを行った。来年2月に開催予定の「延岡花物語」に向けた準備の一つで、参加者は満開になる菜の花と、2年ぶりの開催となる延岡花物語を心待ちにしていた。

菜の花の種まきには、隊員や「家庭倫理の会」の会員ら約40人が参加。毎日同所に通って整備を続ける松田代表は、同所の整備や河津桜を植えた経緯、「桜が咲くまでの期間を楽しんでもらいたい」と1月末〜3月中旬まで楽しめる「黒川寒咲（クロカワカンサキ）」という早咲きの菜の花を植えるようになったことなどを説明した。

種まきを前に隊員らは約1200㊦の区間をトラクターを使って4度耕しており、苦土石灰や肥料を入れて準備。種をまいた場所が分からなくならないよう10㊦間隔に白線を引き、番号札を立てた。参加者は同じ番号の封筒に入った約20㊦、5千粒の種を風の方向に向かってまき、春の満開を期待した。



同所の複数の桜の木に見られる帰里花（3日午前）

花物語は来年2月19、20日の開催に向けて準備を進めている。「来年こそは」と開催を期待する声が多いといい、松田代表は「種をまくとまもなく延岡花物語が来ると期待が高まると同時に春が来るなどホッとする」と話していた。

また、同所では現在、河津桜の木々に「帰里花」と呼ばれる季節外れの花が咲いている。

宮崎照雄先生と
出逢いの聖地巡り

日帰りツアーが人気
日本神話にちなんだ神
社や名所などをめぐる
「宮崎照雄先生と行く神
話勉強会ツアー」がこの
ほど、延岡駅前を発着点
に行われ、同市内から参
加した歴史や神話に関心
の高い20人が日帰りの旅
を楽しんだ。第35回国民
文化祭・みやざき202
0第20回全国障害者芸術
・文化祭みやざき大会の
一環。三重大学名誉教授
で古代史研究家の宮崎照
雄さん(72)を特別講師に
招き、バスの道中では訪
問先の神社と神さま、史

跡などについて話を聞いた。

延岡駅を出発した大型
バスは、まず高千穂町を
訪問。国見ヶ丘と荒立神
社を巡った後、延岡市に
戻り、行勝神社や愛宕山
へ。市内では延岡尽くし
御前」の昼食を堪能。最後
の日向市では大御神社と
立誓神社を訪れて締めく
くった。

このうち高千穂町から
延岡市の行勝神社に向か
う途中では、舞野町の下
舞野神社前を通過する時
に、宮崎さんが神社の由
来について解説。同神社
は第12代景行天皇の皇子
・日本武尊(やまとたける
のみこと)が熊襲(くま



行勝神社の入り口で「さざれ石」について話を
する宮崎さん(右)＝延岡市行勝町

そ)討伐の成功を祝って
舞を舞った場所と伝えら
れ、地名もそれに由来す
る(と)などを紹介。
また、行勝神社では日
本武尊が熊襲討伐後に訪
れた時、山の形が武士が
乗馬の際に着用する装束
「むかばぎ」に似ていると
話されたことから名付け

られたことなどに触れた。
参加者たちは本殿に手
を合わせた後、境内を散
策。県の巨木百選にも選
ばれているバクチノキや
樹齢300年という夫婦
杉を見上げるなどして、
神話を巡る旅を楽しんで
いた。
ツアーは新型コロナウイルス感
染拡大防止のため、対策
を講じた上で大型バスに
20人の限定で実施。一方
で、募集後すぐに定員に
達するほど人気が高かつ
たという。